

JABES 日タイ国際交流イベント（2024年3月）活動報告

国際交流委員会

2024年3月3日-7日、タイのバンコクにて、日タイ国際交流イベントが開催された。

(1) 3月4日(月)：タイの名門国立大学、タマサート大学ビジネススクール(TBS)との共催で、「サステナビリティ・経営倫理に関する国際カンファレンス」を開催した。タマサート大学ビジネススクール(TBS)からは5名の准教授が研究報告を行い、2023年タイ最優秀研究者賞を受賞した Dr. Sakun Boon-itt 教授が基調講演を担当した。(Topic: Sustainable Green Supply Chain Management: Emerging Trends and New Directions in Research)。本学会(JABES)からは、5件の研究報告が行われた。聴講する学生も含め、国際会議への参加人数は40名だった。夕方からの懇親会には、双方から合計23名が出席した。JABESとTBSの交流を深めるとともに、タイにおける経営倫理、CSR、サステナビリティ、SDGsなどに関する研究動向を把握する機会となった。

(2) 3月5日(火)：日産自動車タイ工場の見学会を実施した。23名の学会員がチャーターバスで参加した。見学内容は、工場トップ3名によるオリエンテーション、生産ラインの見学と説明、Q&Aであった。約2時間の見学は大変勉強になり、充実したものとなった。

(3) 3月6日(水)：高橋浩夫名誉教授の案内で、12名が NIDA (National Institute of Development Administration；タイ国立開発行政研究院)を訪れた。同研究院についてのオリエンテーションを受けた上で、構内の博物館や図書館を見学した。また、MOU協定の可能性や国際会議共催などの国際交流強化の申し出もあった。

(タマサート大学と国際会議共催)

(NIDA 訪問)



参加手記：「JABES 日タイ国際交流イベントに参加して」

木田世界 (当学会員：小樽商科大学 准教授)

今回のバンコク訪問の全体に関しては葉山先生が記録を書かれていらっしゃるのので、一参加者としての感想を書かせて頂くこととする。

3月4日(月)のタマサート大学ビジネススクール(TBS)との共催による「サステナビリティ・経営倫理に関する国際カンファレンス」では、タイにおける持続可能な人的資源管理など、組織論的な研究を行う筆者からも興味深い報告を聞くことができた。また、倫理的な消費を行う人は倫理的な働き方を

しているのか、など分野横断的で意外な視点からの報告、タイでも高齢化が始まる中で地域課題の解決に取り組むアクションリサーチの報告なども示唆に富んだ内容だった。

NIDA への訪問では、Sufficiency Economy に関する説明があった。これは、アジア通貨危機などの後に経済的な混乱を迎えた反省から、謙虚さや思慮深さをベースにし、社会・経済の調和した発展を目指す考え方のようで、仏教の国らしい精神性を感じた。一方で、日産工場訪問ではタイ人は新しいものが好きで富裕層がサブカーとして EV を購入することが多いなど、高級市場の発展もあり、成長著しい新興国としての側面もみることができた。

やはり印象に残ったのは、タイの人々のホスピタリティで、タマサート大でもシンポジウムの合い間に茶菓子を出していただいたりして、和やかな雰囲気の中かで学术交流が行われた。街なかのレストランでは筆者の確認不足でアレルギーで食べられない料理を頼んでしまった。一緒にいた先生と交換しようとしたが、スタッフのご厚意で料理をわざわざ作り直して頂いた。「微笑みの国」らしさを感じることでできた滞在だった。

以上